

金峯山西蓮寺の由緒《二〇〇七年書き換え》

永正甲子元年《一五〇四年、五〇三年前》天台宗金剛寺教誓法師が浄土真宗本願寺九代の実如上人に帰依し西蓮寺と改称されました。

当時該寺院は一の谷山に位置し、修行道場を始め伽藍も整い、周辺に存在する幾多の寺坊を圧したる主坊であったと伝えられています。後に現在地に遷居するに際し、金剛寺の寺号を今の村名に残されましたが、天和元年《一六八一年》加州侯検地の際、雄神庄村と合村して庄金剛寺となったと旧記されています。

天明四年《一七八四年》及び天保四年《一八三三年》の二度祝融の災があつて本堂並びに庫裏は烏有に帰し、其の後弘化二年《一八四五年》に復興されましたが、庫裏三度目の火難に罹りました。今の本堂南側柱に焼痕が見られるのは当時庫裏のみにて消し止められた証態です。度重なる火災の為に記録、文献として見るべきものは殆ど無く、只略々確実なる口伝と焼残りの過去帳の一部に記載あるものに拠つて現今までの概略を偲ぶ次第です。

【年表他参考】

永正—室町時代後期、後柏原天皇の年号
天和—江戸前期、靈元天皇の年号（一六八二年九月二十九日—一六八四年二月二十一日）
加州—加賀国の異称
天明—江戸中期、光格天皇の年号（一七八一年四月二日—一七八九年一月二十五日）
天保—江戸後期、仁孝天皇の年号（一八三〇年十二月十日—一八四四年十二月二日）
弘化—江戸後期、仁孝、孝明天皇の年号（一八四四年十二月二日—一八四八年二月二十八日）